

に對しても長短上下すべき卑劣の魂情が出ぬ、夫れ故形の上に現はして不義不徳を働く事は毫もありませんぬけれど、之れに反して若し精神が浮か々々動き出すと、時に或ひは國亂を醸す様な大事が起る様になる、で、其小にしては惡に罵詈賄賂奸策中傷姦邪詐偽等、あらゆる罪惡を構成して、遂には曰く附きの不幸者となり、廣き世界を自ら狹めて小さいく渡らねば成らぬ事となるのだ、此の如き罪惡を構成するは無造作ぢやが、是を抑制して或る程度迄避けて出るは至難の業である、其能く至難の業を勤めて行ふのが、禪に參じて心を不動の境に遊ばして置く人である、夫れ位は男でも女でも官吏でも百姓でも、皆悉く其職にあつて爲し得る事が出来やうし又心を不動の境に置く事も出来る、故に禪は何人にも修し易き方法であると云つたのだ、心源の究明も其不動の境に精神を持ち出す迄の工夫を云ふのである、されば禪は何人も欲く可らざる必要があるのだ、

近來心理學の唱道が學者間に非常に起り、心理學は心性作用を認むるものだから、是非とも研究せぬばならぬと云つて居るが、予も本校や學林に居つた時諸學科の中

でも、心理學には頗る腦を痛めて研究したが、成程人の心性作用を見るには一の鏡面か或ひは寫眞術の様な面白味がある、始めに心とは何ぞやの疑問から、漸く進んで心の定義を爲し、夫れから心性作用を一舉一動の形而下より説き示めしたるなど赤髯先生方も馬鹿には出来ぬ、乃で予はまづ心理學の面白い所から、再讀四讀、書にも就き實物にも就いて仔細に研究したに、其終局と云ふ段に成つて是れはと計りに大悟したのである、大悟したと云へば可笑いが實は考へたのちや、然らば如何なる事を考へたかと云ふに、其心理なる者は名こそ異つて居れ、實は佛陀教中の禪定學に契つて居るのである、尤も心理學の教ふる所は主として心性の作用であるから心とは何ぞと直ちに抑へかかる禪學とは聊か違ふが、行動に對して可及的惡を制し善を行はしむる目的に至つては、禪學の教ふる修證一如行說一致の戒めと相符合して居る、殊に心理學中注意力や決行力などの所へ至つては、最も其然るものと合點した、其理由は斯様なんだ、承陽大師の『普勸坐禪儀』の中に『夫れ參禪は靜室宜しく飲食節あり、諸緣を放捨し萬事を休息して、善惡を思はず是非に管するとなかれ

心意識の運轉を停め、念想觀の測量を止めて、作佛を圖ること莫れ、豈坐臥に拘らんや、尋常坐處には厚く坐物を敷き上に蒲團を用ふ、或は結跏趺坐或は半跏趺坐、謂ふる結跏趺坐は、先づ右の足を以て左の脛の上に安じ、左の足を右の脛の上に安ず半跏趺坐は但左の足を以て右の脛を壓すなり、寛く衣帶を繋けて齊整ならしむべし』とあつて、心意識の運轉を停め、念想觀の識量を止めてなど有るは、寒巖枯木、石地藏の様になつて坐禪せよとの意では無いが、手近い所で譬喩を擧げて談せば、平素の一舉一動を爲すに就いても、精神の置場を右様に定めなければ、心意識の運轉や、又は念想觀の測量等の爲め、愚痴を表白し或ひは笑ひを世に紹介されるから、乃でまづ衆に處するも山の如き精神になり、何事にまれ利害に關係する問題があつたら、(國家或ひは公衆の)利を取り善を唱へるに逡巡せず、百万の群議が湧出すればとて、泰然安坐飽迄も其利説を取つて動かぬと云ふ、大果斷を決行する事を云ふたのちや、夫れから右の足とか半跏趺坐とか申すのは、必らずしも膝を折れとの事ではない、が、併し乍ら右様の方法で以て少し辛棒すれば、醫學上大に身體の健康

を保持するさうである、何故に身體の健康を保持するかと云ふに、ズット骨相を正しくして全身の力を腹部へ統べ集め、肺及び腎臟等に大なる裨益を興へるから、肺、心臓、胃等の諸病に犯さるゝ患は毫も無いと、或る醫者が證明したが實に左様かも知れぬ、若し此説を疑はるゝ人は、試みに結跏趺坐して見よ如何に大食しても必らず空腹を覺え而して後には腹部が非常に大きくなる。夫れから又全躰の注意力を一所に絞集するから、如何に神経系統の過敏な人でも、漸く坐禪の力で自然沈着になつて、我慢も自慢も將巧利心も必らず薄らぎ、後には万事を人に托して自らは顧みざる英雄風が現はれる事は、決して予の法螺ではない今の名高僧や居士連を見たら、思ひ半ばに過ぐる事であらう、以上述べ來し所に依るに禪は吾人の内容及び外形上、缺くべからざる良師である故、冀は此教に依つて、一は安心解脱を爲すの明教と信じられ、二は健全なる精神を培養して以て諸氏が社會に對し人道に對し、與う限りの力を致されん事を勸告する次第である、幸にね咎めもなく聊かの提唱を謹聽して下すつたは、予の頗る満足に思ふ所で、誠に結構であつた、然れ共言端語端に

涉つた爲め、眞實の禪旨を或ひは失つたかも知れぬ、其邊は諸氏の寛大なる容赦を仰ぎたいのである。

禪床夜話大尾

明治三十六年八月四日印刷
明治三十六年八月七日發行

禪床夜話與附
定價金三拾錢

編輯者

發行者

印刷人

發行所

印刷所

小 林 良 參
東京市淺草區新谷町廿八番地

來 馬 琢 道

東京市淺草區黑舟町廿八番地

池 田 宗 平

東京市淺草區新谷町十番地

佛 教 社

(電話下谷二六三番)

東京市淺草區黑舟町廿八番地

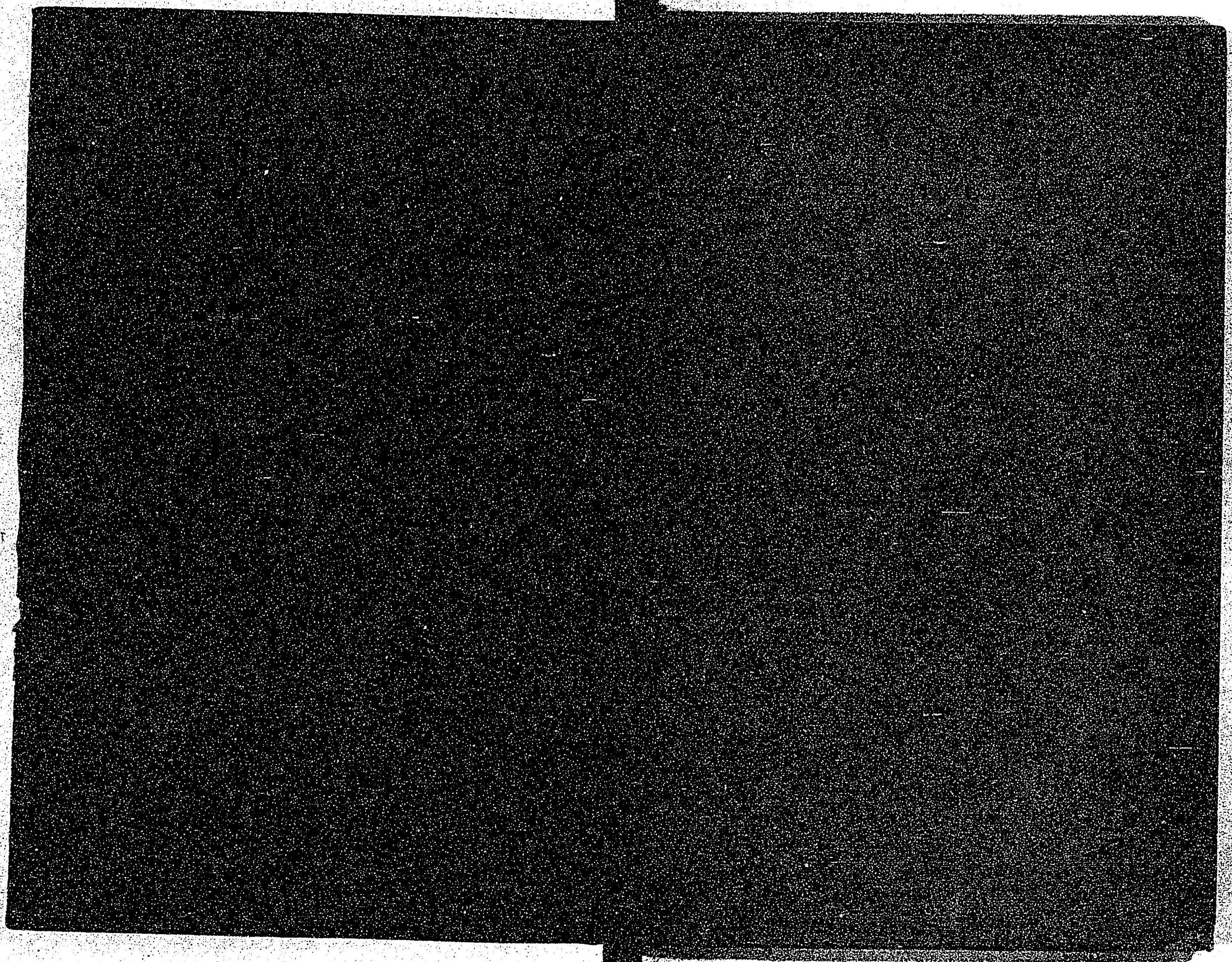
東京並木活版所

(電話下谷百五番)

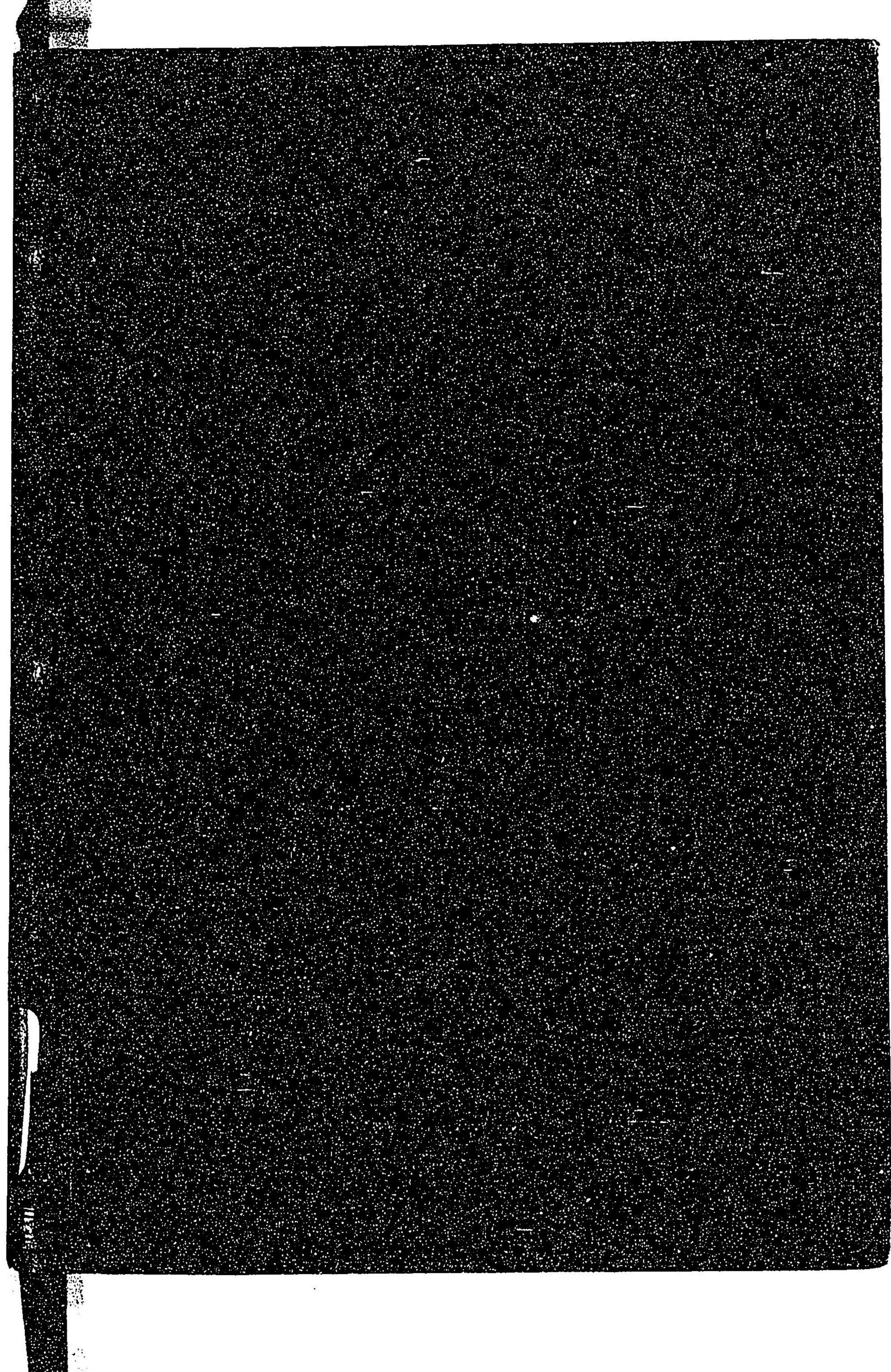


不許
複製

96
301



96
301



96
301

019627-000-3

96-301

禅床夜話

熊谷 全忠/述

M36.8

ABG-0407



